

第3回未来ビジョン会議

- 1 日 時 平成29年9月26日（火）午後7時から午後8時30分
- 2 場 所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員17人（欠席1人）
市長、若山副市長、佐野副市長、教育長、市長戦略監、企画部長、
子育て支援課長、幼児教育課長
- 4 意見交換 内容は以下のとおり

（行政経営課長）

みなさん、こんばんは。

定刻になりましたので、ただいまから、平成29年度 第3回未来ビジョン会議を開催いたします。

本日はご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

- ・欠席する委員の報告
- ・遅刻する委員の報告

それでは、最初に小野市長から挨拶を申し上げます。よろしく願いいたします。

（市長）

改めまして、みなさんこんばんは。

本日で3回目ということで、また充実した会議を進めていきたいと思っております。

1回目、2回目ともに大変貴重なご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。

早速、対応できるものにつきましては、今、善処しているところでございますか、幾つか進めていくべきもの、また、ご意見をいただいたものについて、報告をさせていただきたいと思っております。

まず、大学生のサークル合宿誘致についてご意見をいただきました。これについてですけれども、今後、DHCと連携を図っていき、さまざまな取り組みを進めていく予定でございます。その中で、いろいろなお知恵を拝借しながら、そしてまた民間の皆さんのお力を活用しながら、文化ホールやサッカー場の建設、こういうものを実際に進めていく中で、合宿の誘致について、調査研究をしてみたいと思っております。

次に、若い方の起業支援、それから雇用の場が少ないというご意見をいただきました。

これにつきましては、気鋭の会の皆さんにも大変お力添えをいただいておりますが、今、商工会議所で開催している伊東創業塾に対して伊東市が補助をしています。起業家も増加しておりますけれども、年2回の開催から4回へと増加する予定も聞いております。

あわせて補助金、これを拡充していきたいと考えているところでございます。

それから、ターゲットを絞った新規イベントについて、これもおっしゃるとおりでございます。行政として、サマーレビューによってスクラップ・アンド・ビルドを徹底していきます。そして、来年度に向けて見直すもの、極端に言えばやめてしまうもの、そういうものも含めて、ターゲットを絞った新規イベントも開催していきたいと考えています。

それから、第2回の会議で議論いただきました、シティプロモーションについてですが、これも再度、この会議の中で検討していただきたいと考えている課題であります。動

画制作以外のさまざまな分野のプロモーションにつきましても企画を進めておりまして、ドラマですね、料理人、よく漫画にあるパターンですけれど、料理人があちらこちらに行って仕事を、例えば、どこかの板前に入ったとか、そういった地域に密着したドラマ、これは国土交通省が推進しているものでありますけれども、それについて参加をする予定でございます。このことは、映画の制作について伊東市として、自治体として取り組んでいくということで、皆さんからいただいた意見においては一致しているところではないかなと考えております。この予算については、今行われています議会でも補正予算を立てておりまして、今年度中に実施をしていきたいと考えております。そして、聞くところによりますと、一流の俳優が主演となって料理人として出演して、2回の放送にわたって伊東市が紹介され、いろいろな場面で取材を受けたり、さまざまな観光スポットもたくさんの方にPRできる機会になるのではないかと思います。また、伊東に存在している食という武器も、このドラマを通じて発揮できるのではないかと考えているところであります。

また、志茂田景樹さんに小説を書いてもらうということも、一応、予定として考えているところであります、また詰めて話を進めていきたいと考えております。

この2回の会議で発言いただいた課題や意見があつて、それだけ伊東市が今までやってこなかったというのが、皆さんからのお話や提案によって、現在、実施していく方向になっております。その中で、しっかりと対応していきたいと考えております。

それで、第3回については、第1回の会議の中で特に意見が多かった「子育て支援」これに焦点を当てることといたしております。第1回の会議では、部活動に係る経費、公園や子育て支援施設へのアクセス、子育てに手厚いまちづくりなどの意見が挙がっておりました。第3回から第5回の計3回にわたり、子育てしやすいまちづくりについて議論をいただきたいと思っております。その3回の会議を通じて、子育て支援施策について提案をしていただき、それを実現させていきたいというふうに考えておりますので、ぜひ慎重な審議をお願いしたいと思います。

冒頭の挨拶とさせていただきます。お願いいたします。

(行政経営課長)

ありがとうございました。

早速、意見交換に入りますけれども、その前に本日のテーマにつきまして、改めて杉本市長戦略監から内容について説明をさせていただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

(市長戦略監)

みなさんこんばんは。

今、小野市長のほうから概要の説明がございました。本日の会議、これは3回続けてですが、子育てしやすいまちづくり、これをテーマにお願いしたいと思います。昨日、小野市長と市の職員とで初めてランチミーティングを行ったんですが、そのランチミーティングにつきましては子育て中の女性職員に集まっていたいて、いろいろな意見を聞いたところでございます。その中でも、学童保育や保育園の送迎、また、プールや公園などもほしいというような切実な思いを伺ったところでございます。小野市長につきましては、やはり子育てしやすいまちづくりとして、就学1年前の幼稚園、保育園の保育料の全額公費負担、また、子

どもの医療費の無償化、そして、さきほども出ました部活動などに対する補助などを公約に掲げまして、積極的に取り組んでいくことを約束しております。

このような状況の中、この未来ビジョン会議では、伊東市のこれからの子育て支援策についての協議をお願いしたいと考えております。それで、事前に配付してございます協議の流れのとおり、委員の皆様方には、本日は意見交換、次回はグループに分かれていただき伊東市に必要な子育て支援策、教育支援策について協議をしていただきまして、今後に向けた伊東市の施策の提案をしていただきたいと思いますと考えております。

そして10月24日に予定しております会議において、グループごとにその施策を発表していただいて、伊東市のこれからの政策にどのような形で活かしていけるか、それを皆様とともに考えていきたいと考えております。そういうことを念頭においていただきまして、本日は事前にお渡ししてございます、子どもを取り巻く状況、それと、子育て支援、教育施策一覧を参考にさせていただきまして意見交換をお願いいたします。

なお、子育て支援、教育施策一覧につきましては、既存の事業に加えまして、平成30年度に向けての新たな取り組み、また、既存の事業を拡充した取り組み、そういうものを記載してございます。ちょっと字が小さくて見にくいかもしれませんが、ご覧いただきたいと思います。

これから意見交換を始めるわけでございますけれども、子供を取り巻く状況や環境、また、市が取り組もうとしている施策など、委員の皆様が日頃感じていること、また、委員の皆様以外でも周りの市民の皆様から聞いたことなど何でも結構です。ぜひ、忌憚のないご意見をお願いしたいと思っております。

それで、本日は健康福祉部子育て支援課の相澤課長と教育部幼児教育課の岸課長も出席してございます。子育て支援や幼児教育等で何か疑問や質問等がございましたらこの場でお答えすることもできますので、ぜひ、ご質問等をお願いしたいと思います。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

(行政経営課長)

ありがとうございました。

それでは意見交換に入りますが、小野市長に座長を務めていただきますのでよろしくをお願いいたします。

(市長)

それでは、座長として会議を進めさせていただきたいと思っております。

今回は子育てしやすいまちづくりについて、意見交換をお願いいたします。

繰り返しになりますが、今回の内容は3回連続で実施してまいります。最終的には皆さんから提案された施策を実現していきたいというふうに考えております。それがまさに皆様若い世代からの声が新しい視点から発信されるものでありますし、私の掲げるボトムアップによる政治であるというふうに考えておりますので、どうぞ遠慮なく発言していただきたいと思います。

それで、毎回お願いしておりますが、お1人5分程度ということで進めさせていただきたいと思っております。それから、また今回も五十音順で進めさせていただきたいと思っております。

それでは、A委員をお願いいたします。

(A委員)

今回、子育てしやすいまちづくりということですが、私自身がまだ子供を育てる環境にないですし、予定もないというところで、ちょっと難しい議題だなと感じたんですが、今回は周りの人に話を聞きながら、ゼロからという形で参加させていただきたいと思います。

ちょうど先日、私の妹が子供を産みまして都内から埼玉県に引っ越したので、そのときにどうやって住む場所を選んだのかという話を聞いてきまして、この一覧にもありますけれど医療費が中学生まで無料ですとか、その市も中学生までということだったんですが、あと、待機児童が少ないところ、他にも生活圏内の歩道が広いところとか、ぼくが実際に子育てをしていない状況ですので、考えもしなかったようなことが話に出て、そういうものなんだなと感じました。

それから、実際に伊東市内に住んでいる人に聞いたりすると、山とか川とか海が近くにあって、自然の多いところが子育てにはいいんじゃないかという意見もあったんですけどもこの中の一覧でお話をさせていただきますと、お祝い金ですね。1人目に5万円、2人目に4万円、3人目から3万円という形で、実際に私が子育てをしていないので、単純に1人目が一番お金がかかるのかなというふうを感じるんですけども、2人目、3人目とで金額が減っていることで、中には伊東市は余り推奨していないのかなと感じてしまったりですとか実際に双子が産まれた場合にそれぞれ金額が分かれてしまうのはどうなのか一律でもいいんじゃないかとかという話も聞いたりして、実際に子育てしている人たちと自分が考えていることにずれや違いがあるのを感じました。

その中で、これから2回目、3回目の議論、また、施策提案がされていく中で、今日、皆さんのご意見を聞いて、自分の中でいろいろと意見をまとめたりしていきたいなと感じております。

以上です。

(市長)

具体的に妹さんの事例を挙げていただきましてありがとうございました。

それでは、B委員お願いします。

(B委員)

私は、まだ親という立場を経験したことがないため、今日の会議はどんな話をすればいいんだろうなというふうに考えていたんですけども、自分が小さい頃の環境を思い出しながら、2点ほどお話をしたいと思います。

まず、交通の面で不便なことが大変なのかなと思いました。というのも、私は、小学校は旭小学校に通っており、家から旭小学校まで徒歩で10分から15分圏内で普通に歩いて通える距離だったんですが、もっと家が遠い人は、小学校1年生のときからですかね、バスで6年間通学をしていたのを思い出しまして、そう考えると、交通の便が不便なのは仕方がないとしても、金額にしたら6年間で結構馬鹿にならないんだろうなと思いました。

あと、中学校、高校と年齢が上がるに連れて、中学校より地元の高校のほうが数が少ないと思うので、そうすると、また家からどんどん距離が離れていって、やむを得ず公共交通機関のバスや電車を使うような機会が増えると思うんですけども、そういったときも、自分は伊東商業高校だったので、交通費は親に出していただいたんですけども、結構な金額だ

ったっていうのを感じていました。ですから、交通の便に関して何か支援とかがあればいいのかなと思いました。

もう1点は、小さい頃からよく外で遊んでいることが多かったんですけども、仕事で外を回っているとき、家のそばの自分がよく遊んでいた公園の近くを通り過ぎると、今、日中とか休みの日でも子供が遊んでいる気配がないってことがちょっと寂しいなと感じました。伊東市内には小さい公園が幾つもあるのは知っているんですけども、大きい公園だけでなく、小さい公園とかも地元のお祭り以外に何か活用できる機会があればいいなと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

ちょうど新規施策の中で通学費の補助について検討中でありまして、今、実数を調べています。特に、高校になりますと遠方まで通い、1学年で200人ぐらひは市外に出ていますので、実際に一体どのくらい通学費がかかっているかということをおお体掴み取った中で、市のほうでどのくらいの補助ができるかということをおお検討していますので、今、B委員からお話のありました件については実現できるものと考えております。

それでは、C委員お願いします。

(C委員)

私は、この事業の一覧を見せていただいて、伊東市がこのようにいろいろと考えてくださっていることがとてもありがたいなと思うのと、自分がちょっと前に子供を産んでいますので、今、産んでおけばよかったなっていうふうにも少し思いました。

それで、まずは第1回目のときに中学校の部活動の補助のことでお話をさせていただいたんですが、こちらの方でも、早速、来年度予算をふやしていただけるといふふうに記載されていて、大変ありがたいと思っています。ドキドキしながらも勇気を出して発言させていただいてよかったなと思っています。ただ、家庭の家計からの負担はこれでいろいろと減る部分もあるかと思ひますし、子どもたちにも大変ありがたいことになるんですけども、他の学校の方ですとか他の部活動の方にお話を聞いたんですけども、前回、うちの息子が吹奏楽部に入っているということのお話しをさせていただきましたが、今、北中はとても実力のあるとも熱心な先生が顧問についてくださっていて、県大会にも行けるようなレベルになっています。ただ、他の学校では、毎年顧問が変わっていて、とても苦勞されている部活があったりですとか、そういうことを聞いています。なので、皆さんから「北中いいね」っていうふうに声をかけてくださったりとか、逆に、県大会に行くときにも「北中だけだから頑張ってね」っていうふうに皆さんから声をかけてくださいました。

そういう中で、話が出たんですけども、今、よくブラック部活とかっていうことでニュースとかでもありますけれども、余りにも先生が熱心になりすぎている部活があったり、逆に、先生が大変すぎて、子どもたちに辛く当たったりとかっていうこともあったりすると思うんですが、私も部活動の父母会に参加させていただいて、そちらに関わることによって、顧問の先生とも直接お話しする機会が増えました。やはり先生の大変さがとても分かりまして、部活に出る前に自分のクラスのことをやったりとか、どうしても学校のことをいろいろと済ませなければいけないことがあって、部活に出たくても顔を出せないっていう日があっ

たりとか、でもやはり子供は先生に見てもらいたいっていうので、お互いにとても辛い思いをしている部分があると思います。なので、市のほうで、どこの学校にも講師の先生のような形で、週に1回でも2回でも平等についていただけるような形で体制を整えていただければ、先生の負担もとても軽減されるのかなと思いました。土、日なんかも、部活によっては土曜日だけ、日曜日だけという部活もありますが、土、日の両方をやってくださっている先生方も本当にたくさんいらっしゃいます。そうしますと、家庭を顧みず、また、自分の体のことも考えずに一生懸命やってくださっている先生も本当に多いので、それですと、やはり負担もすごく大きいでしょうし、子どもたちのほうも、やりたくても今度は逆に先生ができないというときにお休みになってしまいます。そうしますと、時間があるのにもったいないとか、試合があるのに直前に練習ができないとか、大会があるのに今日はちょっと無理だなんていうことも出てきたりしますので、そういう意味で、全部の学校で平等に見ていただけるような形の体制づくりをしてもらえるといいのかなとも思いました。

あと、吹奏楽部で言いますと、県大会の前や地区大会の前とか、市内の中学校5校が合同で観光会館のホールを借りて練習をさせていただくんですね。北中は去年からなんですけれども、独自で観光会館を貸していただいて練習をさせていただきました。それは、やはりホールの練習がとても大切だって、とても意味のあるものだからっていうので、去年から試してやっていたんですけども、やはり朝の1回目の演奏より夕方の演奏のほうがすばらしくなるというので、実際と同じような環境で練習することがとても大切だっていうふうに感じました。ただ、観光会館をお借りするにも市の管理ではないので、子どもたちが借りるにも、少し減免もしていただいたんですけども、どうしても実際の負担がかなりありました。そういう中で、やはり中学生の子どもたちが活動することなので、土日と平日とで金額が変わってきたりとか、あと会館を借りるに当たっての付属の設備、冷房費や暖房費、照明ですね。もろもろの経費を全部含んで支払いをしなければいけないということもあります。また、他の学校にもやらせていただくと、学校みんなのレベルも上がったりすると思うんですね。北中だけではなくて他の学校にも同じようにやらせていただけると、みんながそれぞれもっと上を目指していけるかと思しますので、そういう部分も建物の管理が市ではないからってということもあると思うんですけども、補助をしていただけると嬉しいなという声を聞きました。

あとですね、また話は変わるんですけども、ちょうど先日の13日ですね、家庭教育委員会のお母さんたちで給食センターのほうに見学に行ったという話を聞きました。先日、神奈川県でも給食の問題がいろいろニュースに出ていましたけれども、伊東市の新しい給食センターのほうは、とても衛生面でもきれいですし、アレルギーの対応などもしっかりされていて、とてもすばらしいものだったっていうふうに聞いています。ただ、こちらの一覧のほうに健康COME噛む推進事業というのがありますが、こちらの対象が、保育園、幼稚園、小学校となっています。それで、こちらに中学校は入っていないんですけども、中学校は、今までお弁当だったものが給食に変わって大分食事の時間が短くなっていると聞いています。もう中学生なので、早く食べられるよって言う先生方もいらっしゃると思うんですけども、子どもたちの話を聞くと、給食は無言で食べなければいけないと、班にするわけでもなく、前の黒板のほうを向いてシーンとして黙って食べなければいけない。そういう状況もちょっと残念だと思います。ただ食べるだけではなく、せめて食べることを楽しんでいただきたい。それが食育にも繋がると思いますし、もうちょっと楽しい時間になるといい

いのかなと思います。給食の時間は学校単位で決めていると伺っていますが、もう少しゆとりのある時間配分になるよう、学校のほうに促していただけると嬉しいかなと思います。

あと子どもたちの中で、魚を使ったメニューのときに、ちょっと食感が良くないっていうことを聞いています。せっかくこれだけ魚が捕れる所で、子どもたちにもっともっと魚を食べてほしいと思うのに、子どもたちいわく、魚の照り焼きっていうのは照っていないのって言うんですね。照り焼きだから照っているはずだよねって言ったら、給食の照り焼きは照り焼きって書いてあるのに照っていないんだけどって言っています。薄味なのはとても健康のことを考えてくださっているということだと思っておりますが、食感などは工夫していただければいかようにも変わるものだと思いますので、そういう意味でも魚のおいしいまちとして、子どもたちにもっと魚を食べてもらえるような環境づくりを進めていただけたら嬉しいかなと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

部活動の顧問の先生方の多忙化については、今、ホットな話題でして、これからは土、日のうち1日は部活動をやらない方針で、今、進んでおります。また、講師の先生について、具体的に言うと、退職されて再任用というか部分的にお手伝いをしてもらうようなことを現在もやっておりますけれども、これから、また検討していきたいと考えております。

給食のことについては、まさしく生の声を聞かせていただいて嬉しく思います。魚の照り焼きが照っていないというのは初めて聞きましたし、あと、班のように机を向き合わせてということもなくなったという寂しさ、そういうことも初めて聞きました。それも含めて改善できるもの、対応できるものについてはこれから検討したいと思っております。ありがとうございました。

それでは、D委員お願いします。

(D委員)

説明するのが下手なので、今回もレジュメ、企画案をつくらせていただきました。

今回は、子育て支援というテーマだったんですけれども、実は、身近に生活している上で子育てという世代間の切り口だけではなくて、今、地元でこういうことが必要なんじゃないかなっていうニーズを非常に感じておりましたので、今回、子育て支援がテーマですが、それにちょっとプラスアルファの内容も入っておりますけれども、ここに提案させていただきます。

ライトハウス（灯台）プロジェクトという名前で考えてまいりました。ふれあいの居場所づくりというサブテーマにしました。

企画の概要は、伊東市が市内5箇所程度の空き家を定期的に借り上げて、コミセンでもなく町内会館でもない第3の住民の活動拠点をつくってはどうかという提案です。

1つは高齢者の居場所づくり、そして子育てママの居場所づくり、それから放課後の子どもの居場所づくりという、時間で分けると三毛作の活動ができる拠点があったらいいのではないかなという提案です。今までの子育て支援の施策、本当にここ数年の施策は素晴らしく充実してきて、また、この新規事業一覧でいろいろ検討されている内容を見ると伊東市はすごく充実してきたなととても嬉しく思っておりますけれども、例えば、子育て支援センター

を例にしてみると、実際、子育てしている親子は入れますけれども、そこには実際に血が繋がっているお爺ちゃんお婆ちゃん以外は入ることができないですね。それはセキュリティの面とかいろいろ理由があるのだと思うんですけども、世代が分断されているなっていうのは、私も子育て支援のNPOで関わっているときにちょっと感じることもありました。コミセンの児童室などでは、ご近所の方が顔を出したりとかする機会はありますけれども、そこで長時間滞在してゆっくり話すということはなかなかないというのが現状だと思っております。そんな中、日々生活している中で、どうやったら異世代の方たちが気軽に集えて、そして、情報交換をしたりアドバイスをしたり、そんな空間がこの伊東市内にできたらいいなという思いがありましたので、ここに提案させていただきました。

それで、どちらかといえば、今までは行政の方でいろいろ施策を考えて、そのサービスを提供するというトップダウンのような形が多かったと思うんですけども、私が考えるものは、ここで相互に助け合う相互扶助のシステムづくりができたらいいのではないかなと。それで、いろいろ高齢者の居場所づくりで社協さんが活動したり、または、子育て支援課のほうでサロン事業を委託して私たちは活動したりと、それぞれの施策で居場所づくりの活動をしていると思うんですけども、どうしても世代間の分断っていうのが否めないのではないかなというふうに活動しながら思っております。そして、もっと気楽にお茶飲みをするような感じで、地域の住民同士が繋がる場がないかなっていうことを、実はこの間の宇佐美のタウンミーティングに初めて参加させていただいたときに、本当に、この宇佐美の地域の方たちのこういうことを考えているっていうことを、実際、初めて聞くことができました。住んで6年なんですけれども、各町内がどういう問題を抱えて、どういうことで悩んでいるっていうのは、6年住んでいて全く身近なところしか知らないっていう現実を突きつけられて、私は参加して非常に良かったなと思います。そういうような場が小さくてもいいから日常的にあって、お互いの安否も確認できて、お互いの成長を喜び合える、そんな拠点がつくれたらいいなと思いました。

それで、その機能を幾つかまとめてみたんですけども、第1としては、そのまちの実家としての機能。世代間が分断されていて、お爺ちゃん、お婆ちゃんが近くに住んでいらっしゃる方はいいと思うんですけども、例えば、移住をしてきたりとかお嫁で嫁いできたりとか、世代が分断している住民同士を実家のような形で集える機能を1つ持っていたらどうかなと思います。

それから、2つ目がまちの茶の間としての機能。高齢者の方がちょっと立ち寄って茶飲み話ができたり、不用品の交換ができたり、売ります、買います、譲ってくださいみたいな掲示板が設置されたり、日常的にちょっと立ち寄ってみようかなという、そのような交流の場としての機能。

3番目にまちの保健師としての機能で、不登校やいじめや中高生の思春期相談、また、普段集っているのにいらっしゃらない方への傾聴活動。自宅を訪問してちょっと悩みを相談したりするようなまちの保健師としての機能。

4つ目がまちのツーリストビューローの機能として、旅行に来た方が伊東市ってどんなところなんだろうと、住民の人の活動をちょっと見てみたいなと思ったときに立ち寄れる、そして皆さんは伊東のいろいろな地元の情報を知りたいと思っているので、地元の見線で、ここがおいしいよとか、こういう所が裏の観光の名所だよとか、そういう裏の情報を伝えられる場所としての機能を持たせてみたらどうかなというふうに思いました。

最初に私のビジョンがあって、似たような施策はないかと思ってインターネットで一生懸命探していましたが、さわやか福祉財団というところのふれあいの居場所づくりというホームページに出会いまして、実際に私が思い描いていたこととほとんどニアリーイコールでそのホームページに載っておりましたので、参考としてここに挙げさせていただきます。また、どうやって住民同志が集うかということで、やっぱり交通の便、それから駐車場の問題があると思うんですけども、それは、今、流行ってきていますシェアサービスを積極的に利用して、駐車場についてはネットで軒先をちょっと貸してくれるような所に伊東市民がみんなエントリーして、普通の値段よりも安い駐車料で借りられるようなものを利用したり、送迎なんかはウーバーを利用したりというような形で、今のシェアリングサービスをうまく利用しながら拠点づくりをしていったらいかがでしょうかという提案をさせていただきました。

(市長)

前回に続きまして、丁寧に書面でご提案いただきありがとうございます。

空き家対策が全国で大きな課題になっていまして、今、所有者に文書を出しても返信が来ないということで所有者がわからなくなっているところが日本全体で九州の面積よりも広いということになってきましたので、各自治体が頭を抱えているところであります。

伊東市でも、例えば、近所で放置されていて余りにもひどいと、火事等が怖いから何とかできないかっていう相談もあるぐらい、実際多くなりました。

その中で、このライトハウスという提案をいただいたものは、地域ごとにいろいろな各世代が時間によってシェアリングしていくということと、その世代ごとに集えるということととてもいい提案だなと思いました。

また、4番目のツーリストビューローの機能、これは福祉という一面ではなくて、観光のお客様にいろいろとみなさんの情報を発信する拠点ということで、本来の子育て支援や高齢者の皆さんとの繋がり以外にも活用できるということで参考になるものと思います。

それでは、E委員お願いします。

(E委員)

私もまだ子供がいなくてですけども、私は神奈川県平塚というところで育ったんですけど、家から小中学校がすごく近くて両方とも歩いて5分以内で行けたんですね。それで高校も市内にたくさんあったので、高校生になればみんな各自で自転車で通って行くんですけども、この辺は、小学校も中学校も遠いなあと感じています。伊豆高原の高校生と話す機会がありまして、どうやって通学しているのか聞いたときに、毎日親に車で送り迎えしてもらっていると言っておりまして、それは小学校の頃から毎日ですって言われて凄く衝撃的だったんですね。これは親としてはすごく大変だなと感じました。

それで、改善策なんですけども、そのような地域に格安、もしくは、無料の小型バスとかを配備して、朝よく使う時間や夕方よく使う時間をリサーチして、そこで近所から学校とか駅に直接行く、幼稚園バスみたいな感覚のバスがあればいいかなと。それによって、親の時間が増えて、仕事が1、2時間でも増える、収入が上がる、教育費や塾や習い事に合わせるとか、そういういい潤滑ができるんじゃないかなと思いました。でも、朝と夜だけではやっぱりもったいないので、昼は、例えば観光スポットの周遊バスに充てるとか、横浜に住んでいたこともあるんですけど、横浜には赤い靴バスというちょっと小型のバスがありま

して、大人は220円でいろいろな観光スポットを巡ってくれるんですが、例えばそういうものに充てるとか。

あと、こっちに移住してきて感じたのは、お年寄りがスーパーや病院までタクシーで来ていてっていうのをちょっと見かけたんですね。そういうものにも利用できないかなと思いました。それで、移住者の目線なんですけれども、都会の人っていうか交通が便利なところに住んでいる人は、免許を持っていても車を持っていない可能性が結構高いですね。私自身も免許を持っていないんですね。今、自分に子供ができたら、ここでできたらって考えると、ちょっと考えてしまうところですね。やっぱり交通の便はすごく大事だなって思いました。でも、バスがちゃんとあれば、そういう車を持っていない人にもちゃんとアピールできるかなと思いました。今もバスはありますけれども、本数がすごく少ないなって感じていて、先ほども、真っ暗な中、学生がバス停で待っていたのを見たので、ちょっと危ないなあと感じましたし、もっと小型のバスがあつてたくさん配備されていれば、親としても安心かなと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

伊東は車がないと生活ができない状況で、昔はみんなバスに乗ったり徒歩で通学するということが当たり前だったんですけど、今言われたとおり、今は昔と違って、子供の送り迎えに保護者の方がかなり負担をされていると思っています。今、新規に定期券を買う場合というようなことを条件に通学費の補助等を考えています。その中で、今ご提案いただいたような無料の小型バス、また、スクールバスのものを昼間は観光用に使っていくというのはいい提案だなと思いましたので、これから検討していきたいと思えます。

それでは、F委員お願いします。

(F委員)

まず私自身のことでですけども、1歳半になる子供が1人と2人目が今お腹の中において2カ月後に産まれる予定というふうな状況です。その中で、子育て支援、教育施策一覧ということでいろいろな施策があるかと思うんですけども、生まれた子供のお祝い金ですとか大変ありがたいと思うので、私自身は、今のこれらの施策に本当に満足しているというか感謝をしているのがまず正直なところです。それで、個人的には、伊東に住んでいる中で、では他の自治体はどうかみたいなことがどうしても気になりますし、私の妻も埼玉県のほうが嫁いできましたので、埼玉県ではこうだよというような話はちらっと聞くんですけども、果たして、いちいち比べていって、だから伊東もこうしようみたいに全部合わせていったら、何だか何がいいんだかよくわからなくなってしまうのではないかとということも正直なところです。

そして、子育て支援ということが一つのテーマに挙がっていて、当然、さまざまな問題があるからこれがテーマに上がっているわけで、状況としてはピンチな状況なのかなあと。そういうところから、ピンチをチャンスに変えるような案として、この子育て支援策、いろいろあるかと思うんですけど、これらをどんどん磨きに磨きをかけていって、伊東はこれだけすばらしいよみたいなことを、逆にプロモーションしてしまうということが状況を打破するための一つになるのではないかと思います。伊東は他の自治体よりここが優れているだ

とか、伊東はずばりこれだよみたいな、携帯電話でもA社とB社の比較みたいなことがよくあると思いますが、そういうものに近い形で伊東の良さを前面に押し出していけば、これが一つのプロモーションにもなるので、ピンチをチャンスに変えられるものになるんじゃないかなというふうに思っています。

また、今回、会議に出席するに当たって、子どもを取り巻く状況というこのデータの資料も一通り拝見させていただいたんですけれども、特に4番にあります合計特殊出生率ですか昭和58年から昭和62年、ちょうど我々の世代が生まれた辺りの合計特殊出生率が、静岡県が1.84だったものに対して伊東が1.63だったと。現在、平成20年から平成24年の枠を見ると、静岡県が1.53、伊東が1.49と、静岡県全体の落差が大きいのに対して伊東はもともと低いからこんなものであって、果たしてそれが問題のある数値なのかっていうことも正直ちょっと感じたところで、本来、人類のことを考えれば2以上あるのが必要なことだということは重々承知ですが、例えば、伊東は合計特殊出生率も目標数値は幾つであるとか、そういう目標を謳ってPRを兼ねるとするか、例えば、伊東は合計特殊出生率が伊豆半島の中でも高いほうなんですとか、そういう謳い文句ですとか、例えば、次の指標ですかね、就業状況というのがあって、実際に世の中のことを考えれば文書の3行目に書いてあるんですけれど、M字型曲線になるのが当然なのかとも思いますが、実際これの理想の形ってどういう形なんでしょうかね。私にはちょっと分からないんですけれど、例えば、この理想の形が富士山みたいな形になれば、これは富士の国で曲線が富士山型で素晴らしいなんていう、例えば、こんなデータもPRやプロモーションの材料になってくるんじゃないかななんて思っています。それで、他の自治体との比較で伊東の良さを打ち出していかとか、数値目標で前面に打ち出していかとか、さきほどC委員からお話がありました給食、いろいろとテレビで見ると、最近では給食甲子園なんていうのもあるようで、例えば、伊東の給食はそこで優勝した給食ですとかという、子どもたちにとってはこの街の誇りや自信につながっていくようなPRの一つになるんじゃないかなと思いますので、何かそういう形で地場のものとかプロモーションを絡めて何かこういう状況の打開策を見い出せばいいかなあという意見です。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

一部質問があったように思いますが、答えができるかできないか。

団塊世代とか団塊ジュニア世代ということがあってこういうふうなことはあるかと思いますが、M字型の関係については研究しますけれども、人口比率とかそういうこともあろうかと思えます。今、子育て支援策をいろいろとプロモーション化していくということ、そういうことも含めまして、しっかりと対応していきたいと思えます。

ちなみに長泉町はですね、合計特殊出生率が2を超えていまして、今、最も移り住みたいまちということで、若い世代に注目を集めています。さらにどんどんどんどん増えていく状況にありますので、そういう成功事例を参考にしながら進めていきたいと思えます。

それでは、G委員お願いします。

(G委員)

今、長泉町の話が出たのでちょっとだけ話をさせていただきます。特定の人なんですけれど長泉町の方に聞いたんですけれど、長泉町は出生率だったり若い人がすごくいるんですけど、入ってきても年を重ねていくうちに結局また出て行っちゃうんだよということで流れていっちゃうので、住民の方には、外から見たらすごくよく見えるけれどそんなにすごくはないよっていうふうに感じてる人もいるみたいです。

僕は経営者なので、子育てしやすいまちづくりのテーマからちょっと離れるんですけれど今、一番問題なのは人材不足だと思うんですね。人材不足ですから、子育て世代の方だったり、お子様がいらっしゃる方たちもシェアをしながら仕事をやっていただきたいと。なのでさきほどの就業状況のM字にならないで、なだらかな大室山ぐらいがいいんじゃないかなって思います。まあ大室山はちょっとこうなっているんですけれど。そのために、窪んでいるところを押し上げるための女性の環境をつくっていただくっていうのは必要なかなんかと思っております。そこで待機児童の件があると思うんですけど、この辺はですね、もう昔から言っていることだと思います。今は10年前と比べて人材の確保は非常に難しくなっており、最低賃金も上がって行って、私たち経営者にとっては非常に経営しづらい環境に余り言っただけじゃないかもしれませんが、安い賃金でたくさん雇用する時代ではなくて高い賃金でスキルのある人を採りたい、働き盛りの人を採りたい。そうするとM字のところのくぼんだ部分の人たち、教育を受け子育てを迎えて今は仕事ができないんだけどスキルは非常にあるみたいな、そんな人たちを雇用していきたいと思っています。なので、お子様から見るそういう事業や助成も必要なかなんかと思っています。

あと、話は変わりますが、さきほど給食の話が出ましたが、せっかく全校で給食を完全実施したということであれば、ぜひ無償化にしていきたいですね。要は、未払いの人への対応だったりとか、そういうところに人件費をかけるより、全員を無償化して、先ほどのプロモーションじゃないですけど、伊東に来たら無料で給食が食べられるんだぞみたいな、言い方はちょっと失礼なんですけれど、給食もいいものだったらお金をしっかりかけてブランド化していくような企画だったり計画っていうのはあるんじゃないかなんかと思うんです。例えば、全部他の自治体と同じようにやるっていうことは平均値であると思うので、伊東は食文化だよって言うのであれば、他の事業の助成を削ったとしてもメリハリをつけることでそういう魅力をつくっていく、そういうことで給食を無償化して地魚を使いますよみたいなそんな企画というのもプロモーションをする側面になるんじゃないかなんかと思っております。

それで、私ども気鋭の会ではVIPという、小学生と中学生を対象に、5人で会社を作って経営者になって、それで物販をして実際に自分たちも給料を取って納税をして会社を開始させると。要は小さな会社を作る、自分たちが働くっていうことを教えていく。そして、今までも他の所でもやっていたんですが、私たちは、伊東のオリジナルとして、地域のものを地域の場所で地域を愛するっていうことを考えて、VIPというものを立ち上げました。伊東プロジェクトというか、名前は若い人間が考えたので覚えていないですが。

伊東の中でこれから仕事をして、外へ出てまた帰ってきて、例えば、伊東で長年続いた老舗の旅館とか商店とか、そういう仕事をやるんだという気持ちを持って帰って来てくれるような、そういう子どもを中心とした事業をさせていただいております。ここに先ほども市長に言っていたと思いますが、助成をしていただけてすごくやりやすく、僕らはこれを継続事業にしていくことが必要で、小学校の高学年の方が対象なんですけれど、その方が20～30歳になって戻ってくるところまではやり続ける必要があるのかなんかと思っています。

なので、継続的に事業としてやるためには、僕らも無償でやる。だけどお金がかかる場所には助成をしていただければというお願いですね。本当に感謝しております。

こういうところから思うんですけど、民間で今流行りのいろいろな子育て支援だったり民間でなければできないような、ちょっと奇抜な事業で、良いものには少しでも助成をしていただいて、協力をさせていただいて、そして、その方たちが事業をできる環境をつくってあげる。

また、子どもはどんどん減っていく。正直、子どもの事業、建物を建てて商売をする。多分長くは続けられないので、働きが終わってリタイアした世代を扱い上げながら、さきほどD委員も言われたような、サークル活動をしながらか子育て支援をしていただき、放課後デイみたいなものにできる限りのところを積極的に助成することで、もしかして、芽が開けば継続事業になっていくと思います。ぜひ小さなところに目を向けていただけると、伊東がすごく働きやすい、子育てをしやすい環境になるのではないかと考えていますので、ぜひよろしくをお願いします。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

まさに人材不足ですね。10月4日からだと思いますが、最低賃金も時間給も一気に25円上がると。今、832円が県の最低賃金ですから、相当ハードルが高くなってきています。そのことによって、また悪循環が生まれていまして、中小零細企業の皆さんを中心に、もう悲鳴が上がっていると言っていると思います。

今、気鋭の会の皆さんにお願いしているVIP。これはvirtualなところで仮想の会社をつくるということを経験していただいている子どもたちが、将来、起業をするという選択を持って学んでいるんだと思いますので、ぜひ、これを継続させていただきたいと思っています。また生の声で何かありましたら伝えていただければと思います。

(G委員)

すみません、VIPことですがこの事業は小学生と中学生を対象にしています。それで、僕たちは学校とのつながりについては子どもを通してはあるんですが、余りないんですね。ですので、できれば、こういうものをやっているよっていうことを学校の先生方、校長先生とかにPRをしていただいて、子どもたちの口コミで広がっていくということが一番いいんですけど、口コミではなく、学校としてもこういう事業があるということを経験していただいて、協力というか、お付き合いをしていただき融通を利かさせていただけるような環境があればすごくやりやすいです。

それでもう一つ、それをやることによって、多くの子どもたちに参加していただき、将来は全部の小中学校を対象にやりたいなと思っているんですけど、なかなかやっぱりその辺がうまくできないので、学校ごとではないんですけど、街の中だけで済ませてしまっているところが将来への課題なので、ぜひ学校の協力をお願いしたいと思っています。

(市長)

今日は高橋教育長が出席しておりますので、またその話題は出させていただきたいと思えます。

それでは、H委員お願いします。

(H委員)

僕は独身なものですから、子育てのことはちょっと分からないんですけども、この資料によると、10年後に人口が約11,000人減ってしまうよというところから、幾らこういういい事業を立ち上げようとしても、税収がなければできなくなってしまうというところに目をつけまして、それと、旅行が好きなものですから、地方へ行ったときに見たものなのですが、子育て支援住宅というのがあったんですね。そのまちに移住して住むことを前提に空き家なり市営住宅などを格安で貸す、もちろん20代、30代のこれから子育てをする、もしくは子育てをしている方を対象に移住を促進するための住宅のようですが、事業の一覧を見て、伊東市にはそういう事業がないなということを感じました。

そういうところで、外から人を引っ張ってくる形の事業ができて、働く年代の20代、30代、40代くらいの年齢層にうまくヒットしてくれば、税収も落ち着くし、人口も落ち着くし、子どもの数も増える。子どもの数が増えれば子ども同士で遊ぶ環境もできるだろうし、親の世代のつながりもできるだろうし、今より、核家族ではないですけど集合体ができるんじゃないかというふうに感じております。

もう1点、2016年度の伊東市の平均所得収入、税収ベースで260万円とものすごく低いですね。首都圏などを見ますと、400万円台、500万円台が当たり前になっておりますので、そういうことで収入の低い所に引っ越すのかなっていうことで、その辺も何かしら変えることができないのかなっていうふうに感じました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

子育て支援住宅につきましては、いろいろと話題になっていきますので私も承知をしております。さきほど出た空き家対策や市で持っている市営住宅とかを、そういう目的を持って安く貸すとか1年間は賃貸料を免除するというようなことを、この先考えていきたいというふうにも考えております。

また、年収は平均の金額なものですから、給与所得の総額を人数で割っていくと260万円になるんですけども、これは本当に少ない収入の方も含めてのものですから、全体ではそれほど低いわけではない。ただ、やはり多くはないです。ですから今後、こういう指標も改善するために、いろいろな形で雇用の場を創出していきたいなと考えております。

それでは、I委員お願いします。

(I委員)

自分は今年で20歳になるんですけど、2年前は高校生で、さらにその3年前は中学生で、小学生のときも公園が少なくて遊ぶ所といったら学校で遊ぶようにしていたんですけど、学校でも遊ぶとか言われたり、親の目の届く所で遊ばなければいけないとなると、やっぱり危ないから外に出るなということになって、家に帰らなければいけなくなったりとかでもそうすると、今の子どもたちだと家に親がいなかったりするので、資格じゃないけれど塾講師みたいな方を雇って塾みたいなものをつくり、家に帰っても親がいない子どもたちをみんな集めれば、勉強面でも子どもたちにとっていい環境ができると思います。

それから、給食の話ですが、中学生のときは確かに前を向いてお昼ご飯を食べていたんですけど、小学校の給食のときは4人組でご飯を食べていたりしたので、給食になったからこそグループにしてご飯を食べたりしたほうが、そこで友達とのコミュニケーションも取れると思うので、そういうことは、ぜひやったほうがいいと思います。

部活動に関しては、やっぱり自分がやりたいことだと思うんですよ。例えば、自分がサッカーをやりたいからサッカーをやるし、バスケットをやりたいからバスケットをやる。そこで、自分がやりたいことなのに市に援助してもらいすぎることで、子どもたちが楽しんでやるっていうことを当たり前だと思うと、親へのありがたみとかも分からなくなってくると思うので、やはり親が子を支援する。でも、それで親が経済的に厳しいということであつたら、例えば子どもがいるので賃金を少しアップするとか、いろいろなやり方があると思うんですけど子どもは産んだ親が一番面倒を見るべきなので、親が責任をもって子育てをしたほうがいいと思うんですけど、伊東市も市制施行から70年がたって、今までそういう不満が出ていないのかというところではないと思うので、例えば、広報にアンケート用紙を入れ込んだりして、投函するとそれが市役所に届くようにするだとか、そういうことをしてみたらいいと思うっております。

それから、学童保育もやはり見られる人が少なくなっていると思うんですよ。そういうときに、高校生が近くの小学校に行って、保育実習じゃないけれど、面倒を見るとか勉強を教えるって環境をつくれば、保育士になりたいとか夢を持っている高校生たちも実践的に体験できるようにもなると思うので、そういうこともできたらいいなと思います。

それから、伊東商業には、東海バスの協力で川奈から伊東商業まで100円のバスの回数券が出ているんですけど、そういうふうに、小学生に対しても遠い子にはどこどこから一律50円で乗れるというようなことをするのもいいと思うし、貸切バスなどを充実させるもいいなと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

学校を卒業してからまだ間もないですから最近の学校の話が聞けてよかったと思います。塾について、市で環境を整えていくことは大変良いことだと思っております。どのようにできるかはまだ分かりませんが、参考にさせていただきたいと思います。

中学生の給食も先ほどお話に出たとおりで、きょうは教育長がおりますので、話題にさせていただいて検討していきたいと思います。あと部活動ですね、確かに保護者の責任は大きいものでありますのでそれも検討します。それを考えた上で部活動の援助をしていきます。

それから、学童保育に高校生がいろいろな面で関わるといことですね、すごくいい意見であると思われました。どのようにできるかはまた考えますが、参考にさせていただきたいと思います。あと通学費の関係ですね、それについてもよく分かりました。これから民間事業者とも検討していきたいと思います。

それでは、J委員お願いします。

(J委員)

まず、小野市長、高橋教育長、先日行われたサッカー大会につきまして、ありがとうございます。とても天気がよくいい大会になりました。

今、皆さんの意見を聞かせていただきましたが、かなりいい意見でしたので、私は話すことがないんですけれど、待機児童の問題が少し気になりました。私の会社でも、パートですけど、子供がいてなかなか仕事ができないという人がいまして、数時間のパートをやっているような状態です。もうここ最近の話なんですけれど、結局、その人も何人か子どもがいて、保育園に入りたいけど、なかなか保育園に入れないと。当然、市役所にも相談しに行きましたし、直接、保育園の知っている方とかにも相談しましたけれど、一時預かりはするけれど、正式に保育園入園させることはちょっと難しいよということをおっしゃられたらしいです。なぜ預かってくれないのか、その理由がいまいち納得いかなかったみたいで、どういう基準で判断されているのかなっていうところを少し疑問に思っているような感じがします。何か伝手はないですかみたいなことを言われたんですけど、私もそういう伝手のある方はちょっと分からないので、聞いてみるよと言ったんですけど、やはり、当たり前のように仕事をされていたりとか、旦那さんが当たり前のように仕事をされていて、ある程度収入のある方なんかはいいでしょうが、やっぱり母子家庭だったりとか、1人で育てている方だったりとか、なかなか家庭が裕福じゃない方とかも当然いらっしゃると思いますけれど、と言うのは、本当に仕事をしなければいけない状況なのに、子供を預かっていただけないのでなかなか仕事ができないというのが、現状、本当にあります。伊東市なんて、特に多いのかなと思います。だから、昼間の仕事ができなくて、結局、夜に親に子どもを見てもらって、夜の仕事に出たりとか、あと、数時間誰かに預けて、本当に2時間、3時間仕事に出たりとかっていう人が多いので、そういうところを充実してあげれば、仕事ができ、なおかつ子どももちゃんと面倒を見られるのかなっていうところもあるので、私は、子育て支援というのは、そういうところなのではないかなとすごく感じております。あと、さきほど、F委員でしたりG委員から、プロモーションの話が出ましたけれど、本当にすばらしい施策をやられていて、私は特に文句がないのかなと思います。私も聞いていて、その一つ一つの事業に対して、もう少し磨きをかければ本当に良いものになっていくのかなってことを思いましたので、その辺の充実はさせてあげるべきかと思えます。あれもこれもやってしまうと本当に税収が少ない中、お金をかけることがなかなか難しいと思えます。今、すばらしいことをやられていて、私は、何一つ抜けたところがないのかなって思えますので、その辺のいろいろな事業にどんどん磨きをかけていただけたらなと思えます。

あともう一つ、教育面ですが、サッカーをやったときに、先生と生徒とのやり取りをいろいろと聞かせていただいて、私は知らなかったんですけど、今、「さん付け」で呼ぶのが当たり前のような感じなんですね。何でさん付けで呼ぶかっていうことを知っている先生に聞いたら、人権の問題だったりとか、そういうのがあるということで理解はしました。ですが、私はそういう世代ではないですから、いろいろとどうかなと思うところがあったんですけど、先生が生徒に対してもさん付けで、生徒同士もさん付け、下級生に対してもさん付けということで、何か上下関係が余りなくなってきたのかなというところがあって、それって教育的にどうなのかなっていうところを少し疑問に思いました。

都心から離れて田舎ならはだからこそ充実させることっていうものが本当にたくさんあると思うんですよ。その中で、教育もそうですけれど、都会に倣ってそういうことをやっているとかではなくて、本当に伊東市らしい育て方っていうのがあると思うので、人権とかそういうことと言われる親御さんは結構多いでしょうけれど、こういう自然が本当に多い中で育てるという環境を活かして、もう少し子どもと大人の関係性ということも含めて、伊東市独自のいろいろな教育を行ったほうが、よりすばらしいものではないのかなと感じました。

あとは、皆さんがいろいろないい意見を言われたので、以上です。

(市長)

ありがとうございました。

今の伊東市の待機児童数が、現状で19名おまして、当然ゼロを目指しています。今、半分質問的な話だったので、ご参加いただいている委員の皆さんにも、保育園の入所についていろいろと担当しているのが岸幼児教育課長で、きょう来ていますので、改めてどういう審査なのかということや申し込み状況とかもお話ししていただきたいと思います。

それから、子ども同士でも教員も「さん付け」ということで、これは、私も不思議というか、おそらく伊東市だけでやっていることじゃないんですね。ですから、教育の環境が変わってきたんだろうと思いますので、岸課長からお話しいただいた後に教育長からお話しいただきたいと思います。

(幼児教育課長)

本当に貴重なご意見をありがとうございます。そして、今ご指摘いただいた事項がまさしく私たちが日々取り組んでいる課題そのものです。伊東市の待機児童の内訳については、やはり0歳から2歳までが、今市長が申しあげました数字のほとんどです。その内容と申しますと、伊東市は一斉申し込みという制度をさせていただいております、その時期に、既に妊娠されている方は、産後休暇が明けたあとであっても入所の確約をさせていただいております。この点数の付け方については、いわゆる横浜方式とか東京方式といわれている方式とは違っていて、安心して子供を産んでもらうため、産んでから保育園を探すのではなくて、もう妊娠前から保育園の施設を審査させていただいているという状況の中で、待機にされている方は、今J委員がおっしゃったとおり、家計が苦しくなってきた、だから自分も仕事に出たいという母親が、だけど子どもがいるから働きに行けない。そうすると、伝手を頼って子どもが寝ている間だけでも働ける2、3時間のパートでもいいから仕事をしたいと。そういうところで凌いでいらっしゃる方がそのほとんどです。

こういった働き方をしている限り、F委員の言われたとおり、M字グラフのMは、いつまでたっても引っ込んだままの状態になっています。ある意味、こう言ったらおかしいですけども、パパの収入がものすごく多くて、ママは家庭教育に専念できて、かつ、近所にいっぱい子育てをしているお母さん友達もいるし、近所にお爺ちゃんもお婆ちゃんもいるっていう世界でしたらば、M字のMが下がっても、多分、子育て幸福度は高いんじゃないかなっていうふうに思っています。ただ、J委員の言われるとおり、声を聞く限りですと、やはりM字を上げていくためには待機児童を少なくして、女性の方が2、3時間のパートから、せめて6時間、8時間というふうに働けるようになりますと、さっきG委員の言われた人材不足のところも解決できるっていう形になっていて、今日、お話いただいていることは、全て、どこかがうまくいけばプラスのスパイラルで上がっていくんじゃないかなっていう、ちょっと未来が見えたかなと、まさしく未来ビジョン会議だなと思っています。

具体的な方策としては、私どもがいろいろな施策の中で考えていくことだと思いますけれども、本日、そういった生のご意見を伺えたことで、保育園行政のほうにとっても役立たせていただけるというふうに思っております。

困ったお母さん方がいらっしゃるようでしたらば、幼児教育課の中に保育コンシェルジュという特別な職員がおります。ただ、コンシェルジュに相談したからといって仕事がすぐに

見つかるとか保育園にすぐ入所できるというわけではないですけれども、何らかの形でお手伝いができるような相談業務もさせていただいておりますので、もし保育園探しのことで、ノウハウも分からないとか、何か合点がいかないっていうことがあるようでしたら、幼児教育課のコンシェルジュのほうにお越しいただければと思っております。

すいません、長くなりました。以上です。

(教育長)

今、ご質問がございました「さん付け」について、今、伊東市の行っていることなんですけれども、さきほどの人権教育という問題がありますけれども、基本的には、学校の授業の中では、みんなで「さん付け」での呼び名をしながら授業を進めていこう、これが大前提にございます。ただ、時と場合に応じた言葉遣いというようなことも必要で、学校にはいろいろな場がございますので、例えば、部活動なんかの中でお互いに声を掛け合うのには、「何々さん」というよりも「何々」って言ったほうが、いいプレーができるような場面もございますので、そういうところでは臨機応変にやっているという実態はございます。

しかし、やはり基本は「さん付け」で授業を進めていくことが身に付いておりますので、基本的には今、子どもたちは、いろいろな場で「さん」をつけながら生活をしているという実態がございます。数年前は、ほとんど「さん」をつけないで生活していたこともあると思うんですけれども、今は静岡県全体の中で、そういう方針で指導しているという中において伊東市も同じようにやっているという実態がございます。

また、別の場面でそういう話があったとのことで、広げていきながら伊東の新たな教育を進めていけたらいいと思っております。

大変貴重な意見をありがとうございました。

(市長)

それでは、K委員お願いします。

(K委員)

遅れまして申しわけありません。

僕自身が今サッカーチームのほうで指導をしまして、このテーマについて僕が一番感じたのは、子どもを取り巻く状況ってというのは、伊東市は、サッカーで言うと余り良くない状況ではあると思います。状況というのは、土のグラウンドと芝生のグラウンドでサッカーをするだけでも、足が速くなる、遅くなるという、それだけの状況も変わりますし、子どもが何かをやるときに、それに適した状況をつくってあげるのも僕らなんですけれど、そういう場所もなければ、そういうこともできていけないと思いますので、サッカーだけじゃないんですけれど、今、I委員からも意見がありましたけれど、子どもが自由に遊べる場所、運動能力の低下とかにも関わってくると思います。

今、公園から遊具が消えているというような状況がたくさんありますけれど、熱海の長浜みたいに大きい遊具があって子どもたちが遊べるようなところが伊東市にもあったらいいかなと思います。あそこができたときに、僕自身が、ああいうところで遊びたいなとか、子どもを連れて遊びに行きたいなっていうことを思いましたので、そういう遊べる場所、子どもが元気よく遊べる場所をつくってあげたらいいのかなということも思いました。

今、友達とか誰とも関わらなくても、ゲームとかケータイとか、そういうものをひとりでいじって自分ひとりで遊んでいるような状況も多いので、子どもに外で遊ぶというか、体を動かすことの楽しさを教えようということで、僕たちはマーレというクラブで市内の各幼稚園を回ってサッカー教室をやらせていただいています。それは、サッカーを指導するだけでなく、サッカーを通じて仲間と協力し合う楽しさだったり、ボールを使った中でこういう遊びができるよという楽しさ、体を動かすことの楽しさを伝えるためにそういう活動をしています。

統計が出ているわけじゃないですけど、運動能力が低下すると体の機能も低下すると思うので、出生率にも関係してくるのかもしれないと思います。小さいころから体を動かすとか運動することが体が発達することと関係があるかなって思いますので、そういう子どもが遊ぶ場所とか体を動かせるような場所があったらいいなって思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

サッカー場は必ずつくります。

公園の遊具については、小室山の恐竜広場は多賀と同じくらいお金をかけてやっていますが、車で行けるとか、そういう簡単に行ける場所ではないものですから、そこは課題であると思っています。ただ、これで終わりではなくて、これから、大きい公園じゃなくてもポケットパークみたいなところに高齢者の方と子供たちが触れ合うような場所がつくれれば、これからどんどん積極的に探して遊具等も整備していきたいと思っています。

それでは、L委員お願いします。

(L委員)

子育て施策で一番問題とされるのが、金銭的な問題だと思います。さきほども何度か話にありましたが、M文字曲線の問題、女性の就業率が20歳から44歳までは低下しているということ、また、女性は男性に比べて賃金の上昇率が小さいって問題点もあると聞きました。ですので、子育て支援とともに女性が仕事を辞めにくい環境づくりを企業に働きかけていくことが必要なのではないかと思っています。

あと、伊東市の保育料は市民税等に比例して算定されているということだったんですけども、特に手がかかるといわれている0歳から2歳児の保育料が月額で7,000円から58,000円まで差があると聞きました。ですから、子育て世代の方がどのように考えているかは分からないんですけども、保育料以外にも子育てにかかるお金はたくさんあると思うので、家計における保育に関する金額の割合等も調査することで、必要な支援について見えてくるのではないかと思います。

それで、私はまだ結婚もしていないんですけども、将来結婚して子供を育てる立場になったとしたら、旦那さんには絶対に育児をしてもらいたいと思っています。それで、ある調査では、男性が育児に参加する割合が低い理由として、多い順に、仕事で育児に参加できないから、次が育児は女性の仕事と考えているから、その次が育児参加を後押しする行政支援が少ないから、それから育児の仕方がよくわからないからといった理由が挙げられていました。それで、伊東市の子育て支援施策と教育施策についての一覧を拝見させていただいたんですけども、私が知らないだけでしたら申しわけないんですが、やはり母親に対する支援

策が多いなと感じました。ですので、父親限定の子育てサロンとか、あと育児休業経験者の父親を講師に招いた子育て講座ですとか、あとは、料理とか掃除とか家事に特化したことを教えてくれる講座とかがあったら、特に料理なんか、家庭料理だけでなくお弁当とか、あと離乳食などまで教えてくださったら、家庭で分担して育児とか家事に取り組めるので、自分が子育てするときにこういうものがあれば、すごくありがたいと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

保育園の料金も話題に出ましたのであえて申しますと、平均ですけれども、保育園児1人にかかる全体の経費は、155万1,000円ということで、当然、個人が全額払うのは不可能ですから、その一部を所得に応じて応分の負担をしていただいているということであり、それで、特に0歳から2歳までは手がかかるといっても、これも言わなくても分かることと思いますが、そういう意味でご負担をいただいております。ちょうど昨日、安倍総理大臣が、これからは子育て支援にシフトしていくということで、その中で3歳からは公費で全額無償化すると、そして、0歳から2歳までは所得に応じて負担していただくが、低所得者に対しては支援をするとおっしゃっていました。

私は自分の政策として、就学1年前からは公費で負担するというのを、国に先駆けて、すぐに来年度から実行します。いずれ国費でその分が交付されますので、そうしたら、さきほど来お話にありましたように、例えば、給食費を無料にしていくとか、もしくは、0歳から2歳の部分について応援をしていくとかそういうことを進めていきたいと考えています。

それから、父親の育児についてはおっしゃるとおりでして、男性はですね、大体、男の人は外で働くから子育てはお母さんの仕事みたいに私自身も思って育ててきましたが、それは今の時代には合っていないと。今言われたような、父親の子育てサロンみたいなことは発想になかったのでいい提案をいただきました。今後、どのようにできるか検討していきたいと思っております。

それでは、M委員よろしく申し上げます。

(M委員)

私もまだ子育てをしておりませんので、知り合い等からの伝聞などに基づいた話になりませんがご了承ください。

この施策の一覧を見せていただいたんですけれども、制度としては素晴らしいのではないかなと思います。ただ、これも伝聞ですけれども、待機児童の話もありましたが、実際に保育園に入れた方からも、職場や実際の住居から遠いところの空いている保育園に入ってしまった、利便性がかなり悪いというような話も聞いておりますので、もし入れても満足されていない方っていうのが結構いらっしゃるのではないかなと思います。

あと、学童保育のほうなんですけれども、時間の関係や学童である程度やれることが決められてしまっているんで、子どものほうからの不満があるっていうのは聞いています。要するに、もう少し自由に遊びたいとかっていうのはあるんです。ただ、そうすると管理している方も大変なので、ある程度やることは決まっているんだと思うんですけれども、子どもの側から不満が出ているんじゃないかなと思います。

これらの子育て支援の目的といいますと、人口の話になると思うんですが、みなさんがおっしゃったように、結局、雇用と賃金の話になりますので、衣食足りて礼節を知るといいますか、根本のところから対策を練っていただければと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

保育園で本当の希望ではない園に通われているというお話がありましたけれど、やはり第1希望に入れば一番いいんですが、定員に達している場合とかというときに、第2希望、第3希望にということになってしまいます。ただ、年度が変われば、また第1希望に申し込めるようになっていきます。岸課長を始め一生懸命やっていますので、またお伝え願えればと思います。

それから、学童保育についても保護者からはいろいろ聞いていますが、子どもたち側からの不満というのは余り聞こえてこないと思いますので、それは貴重な意見だと思いました。

あと、雇用とか賃金については、民間の皆さんと一緒に全力で取り組んでいきたいと思えます。

それでは、N委員お願いします。

(N委員)

私も子育て支援施策というテーマをいただいたときに、家庭の話ですが、4か月になったばかりの息子がいて、先週、妻と一緒に子供の4か月の定期検診に行ってきました。その際予防接種を打ったんですけども、それは公費で支払えたのでそのときは無償で帰ってきたんですけども、先日、1か月になったばかりのときに、ロタウイルスの注射を打ったんですけども、妻のほうから、実は任意の予防接種には補助がないんだよ実費なんだよということで、それは実費で15,000円の支払いをさせていただきました。それから、今回は子育て支援がテーマなので、妻のほうにも何か意見はないかと聞いたんですけど、その話でして任意の予防接種を打つ際に何か支援や補助があると非常に助かるかなと、すいませんが我々も決して家庭が裕福なほうではないので、何とか子どものためを思ってその任意の注射をしたんですけども、先ほどから低所得とかいろいろな問題がありますので、そういった、なかなか費用が工面できなくて難しいよというご家庭においてもですね、そういった支援があると打つ機会も非常に多くなりますし、逆に子どもが病気にかかるリスクなんかの軽減ができるのかなということが予想されますので、そういった支援なんかがあるといいなと思っております。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

15,000円の負担は大きなきなと思いました。どこまで検討できるかは分かりませんが、これから課題にしていきたいと思えます。

それでは、O委員お願いします。

(O委員)

子育て支援、教育施策ということですが、今、現状、妊娠している方や子どもを育てている保護者の方たちにもっとアピールやプロモーション等を行ったほうがいいと思います。

私の事業所でも幼児保育の事業をやっていますが、実際に皆さんにそれをどれだけ理解してもらえているのか、事業所で幼稚園を回ったり、保育園を回ったりしてアピールはしているのですが、ああ、そういうのもあったんだという話を聞きます。そういうところを踏まえて、もっと利用価値があるものなので、これらの子育て支援施策、教育施策を市民の皆さんが理解できるように、把握できるようにアピールをしていけばいいと思いますので、よろしくをお願いします。

(市長)

ありがとうございました。

確かに広報ってなかなか難しいというか、行き届かないことが多いと思いますので、そういう中で、これからどのようにアピールするか考えていきたいと思います。

それでは、P委員をお願いします。

(P委員)

私からは3点ありまして、まず1つ目は、子育て中の女性の社会復帰の促進をしていけたらなと思っております。具体的には、託児所付きでパソコン教室や資格取得のための講習をやったりとかで、子育て中の女性で働きたい方ってたくさんいるんですけども、やっぱりそのとっかかりが見つけれないだとか、働くのにも自信がないだとかっていう方も多いので、パソコンでの自信をつけたり、あとは孤立しがちな方もいるので、社会とのつながりを得る。あと子育て中というのは、育児の合間に家事をしてという終わりのないことを延々とやっているの、達成感っていうのもなかなか得られないんですね。やっぱりそれが当たり前なので、周りからも認めてもらえないというところで、こういった教室や講習とかによって、これができたらとかこんなことを覚えたってという達成感を得ることもできると思います。

2つ目なんですけれども、先ほども意見で出ていたんですけれども、教育面になってしまうんですけれども、今、塾に行けない子もたくさんではないかもしれないですけど、いると思うんですよ。ただ、その一方で、家庭の経済状況によっては塾に行っている子も多いと。そこでやっぱり格差っていうのが出てきてしまうと思いますので、例えば、学校の放課後とかに、曜日ごとに教科を決めて、その先生がいる自習室っていうのを開いて、塾に行けない子でも誰でも教育を受けられる場っていうのを設けたりとか、あえて教えるとか講義をするとか授業をするというわけではなくて、自主性を育てるという意味でもそういった場があればいいなと思いました。

最後なんですけれども、私もやはり男女ともに育児参加をしていけたらいいなと思っております。ただ、男性も女性も、男女がともに育児をするということに対して、やはり意識が少し低いと思うんですね。今まで女性が主に育てるっていう習慣がありましたから、予防接種とか保育園の申し込みについても、共働きでもお母さんのほうが手続きをしているところが多くて、そこに関して、本人たちは特に男性も女性も疑問に思わない。それが当然というのが、未だに女性が中心となって子育てをしているっていう原因にもなっているのかなって思っています。具体案が難しいんですけれども、この間、堺市だと思いましたが、男性の育児参加に結構力を入れているっていうことを聞いたことがあって、市役所

の話ですけれども、確か男性の育児休暇取得率が10%程度ある。男性の職員の1日保育体験を推進していたり、子供が生まれる前には、男性や女性に関わらず育児計画書を提出して自分は育休をとるのかどういふふうに参加していくのかというふうな形で、子どもが生まれる前から参加するような意識を植え付けているっていうのを聞いたことがあって、ただ、それを市全体としてやっていくには少し難しいかなっていう思いはあるんですけれども、何かできることがあればなと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございます

女性の産後の社会復帰についてですね、やはり就業支援とか。また、社会とのつながりみたいなものは、確かにこれは1回途切れるとまた新しく構築しなければなりませんので、そういう意味でも取り組んでいきたいなと思います。

あと、放課後の時間を使った塾のような子どもたちを集めるというようなことは、何もやっていないことはないと思うんですが、今日は改めて申しませんが、また参考にさせていただきたいと思います。

あと、父親の子育ての関係ですけれども、例えば、市役所が先行して積極的にやることによって、民間にもそれが波及されるような、そういうムードをつくっていくことは大切だと思いますので、今後、検討したいと思います。

それでは、Q委員お願いします。

(Q委員)

私には子どもがいないので、今回のテーマはすごく難しいなというふうに思いました。知人に学童の指導のお手伝いをしている人がいたり、子育てをしている人がいるので、そういう人からお話を聞いて考えるきっかけになりました。それで、これこそが私自身に子どもがいないから余り子育てに関心がなかったり、考える機会がないっていうこと自体がすごく問題なのかなというふうに思います。

その要因の一つは、やはり交流する機会がない、そういう場所がない、意識が余り高くないというのも問題があると思うんですが、そういう場所があれば、社会の中の温度差とか子育てに対する温度差っていうものをもっと解消できるのかなと思います。

さきほどD委員がご提案されたプロジェクトのような場所があると、こういった問題もひとつ解決の方向に向かうのかなというふうにすごく感じました。それから、学童のお手伝いをしている人に聞いてみると、人手が足りないっていうのも問題なんですけれども、閉鎖的な場所にあたりということで、街のほうになかなか開かれていないということがひとつあるのかなというふうに聞いています。そういった場所が社会に開かれた場所があると子どもがいる人もいない人も、みんなが自分の問題として考えるきっかけになると思います。そういった場所が開かれているということで治安もよくなりますし、そういった街は、どの世代にも、子育てしていない人にもしている人にとっても、住みやすい街になるのかなと思いますので、この社会には子育てに関係のない人はいないっていうことを心に強く持てるきっかけになるのかなと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

ちょうど昨日ランチミーティングを行いまして、そのときに同じような話がありました。その中で私が社会福祉協議会からお願いされたことですが、テレビにたまに出ますが、「かーちゃん食堂」といってリタイアされた世代の方が食事をつくってあげて、学童の子どもたちを招待するようなことをやっていると思いますけれども、それを新年度からやりたいと。今までもやりたい人はいっぱいいたけれど、やる場所がなくて、ちょうど3月に新しい健康福祉センターができて、クッキングルームといいまして食事をつくる場所ができたので、そこでつくるから、例えば、毎週何曜日に子どもたちをいっぱい呼んできてほしいとお願いされたということを言いました。まさしく交流の場をつくるため、新しく健康福祉センターができましたので、そこを活用しながらいろいろな形で取り組んでいきたいと思います。

今日はいろいろと活発な意見をいただきまして、時間はちょっと延長しておりますが、これで終了とさせていただきます。

次回ですが、会議の冒頭にも説明させていただきましたが、今度はグループごとに分かれて子育て支援、教育政策について皆さんの意見をご提案いただきたくと考えております。そして、次回まとめたものを、さらにその次の回、グループごとに発表をしていただくことを予定させていただきたいと思いますので、ぜひ、またいろいろなご議論をされて提案がされますようお願いしたいと思います。

私もそうなんです、前例とか固定観念にとらわれないもの、そして自由な発想に強く期待しておりますので、こんなこと言ったってどうせできないんだからダメだとか、そういうことは考えないでいただきたい。現実にはそうなるかもしれませんが、どうすれば本当に子育てをしやすいのか、どんな時代が来るのかということについて、皆さんの目から見たそれぞれの立場からいろいろな発言をしていただいて、まとめていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次回の日程とその他について、事務局からお願いします。

(事務局)

次回の会議の開催日程でございますけれども、10月11日の水曜日、午後7時から午後8時30分となります。よろしくお願いいたします。なお、請求兼領収書という提出書類の提出がまだお済みでない方は、会議終了後に提出のほうもよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(市長)

何かご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。次回は10月11日午後7時からになります。また開催通知も送らせていただきます。どうぞご協力いただきますよう、お願いいたします。

長時間お疲れさまでございました。